

# 令和4年度 学校自己評価点検

学校自己評価を行うにあたり、以下の方法で、データ収集、分析、課題の抽出を行いました。

## I データの収集

### 1 アンケートの作成 令和元年度7月－12月

「専修学校における学校評価ガイドライン」  
平成25年3月 文部科学省一に準拠した  
アンケート内容は別紙1参照

### 2 アンケートの実施 令和4年度3月

対象	教職員	16名	平成4年度在校生	77名
	回収率	94%	回収率	93%

## II データの分析、課題の抽出

### 1 大項目ごとに平均得点を算出をした

### 2 大項目ごとに評価と課題を抽出した

## III 自己評価点検委員会で討議をした

# 学校自己評価点検

平成19年には学校教育法の改正により、自己評価の実施と公表が義務化されました。本校は長野県立病院機構を設置母体とし、平成26年4月に地域医療を担う人材育成を目的に看護基礎教育をスタートさせました。開設当初より、自己点検評価委員会・外部評価委員会を設け、評価・改善を重ねながら学校運営にあたってきました。

令和4年度は新カリキュラムが導入され、新旧カリキュラムを同時に運営しました。

この度、令和4年度の評価がまとまりましたので、結果の公開をいたしますとともに、今後も分析と検討を重ね、学生の学習環境の改善に努めてまいります。

## 1 大項目ごとの平均得点

I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
教育 理念 目標	学校 運営	教育 活動	学修 成果	学生 支援	教育 環境	学生の 受け入 れ募集	財務	法令の 遵守	社会貢 献・地 域貢献
3.4	3.3	3.6	3.1	3.3	2.8	3.6	3.5	3.7	3.3

平均得点

評価は4段階とした 4：とてもそう思う 3：そう思う  
2：あまり思わない 1：まったく思わない

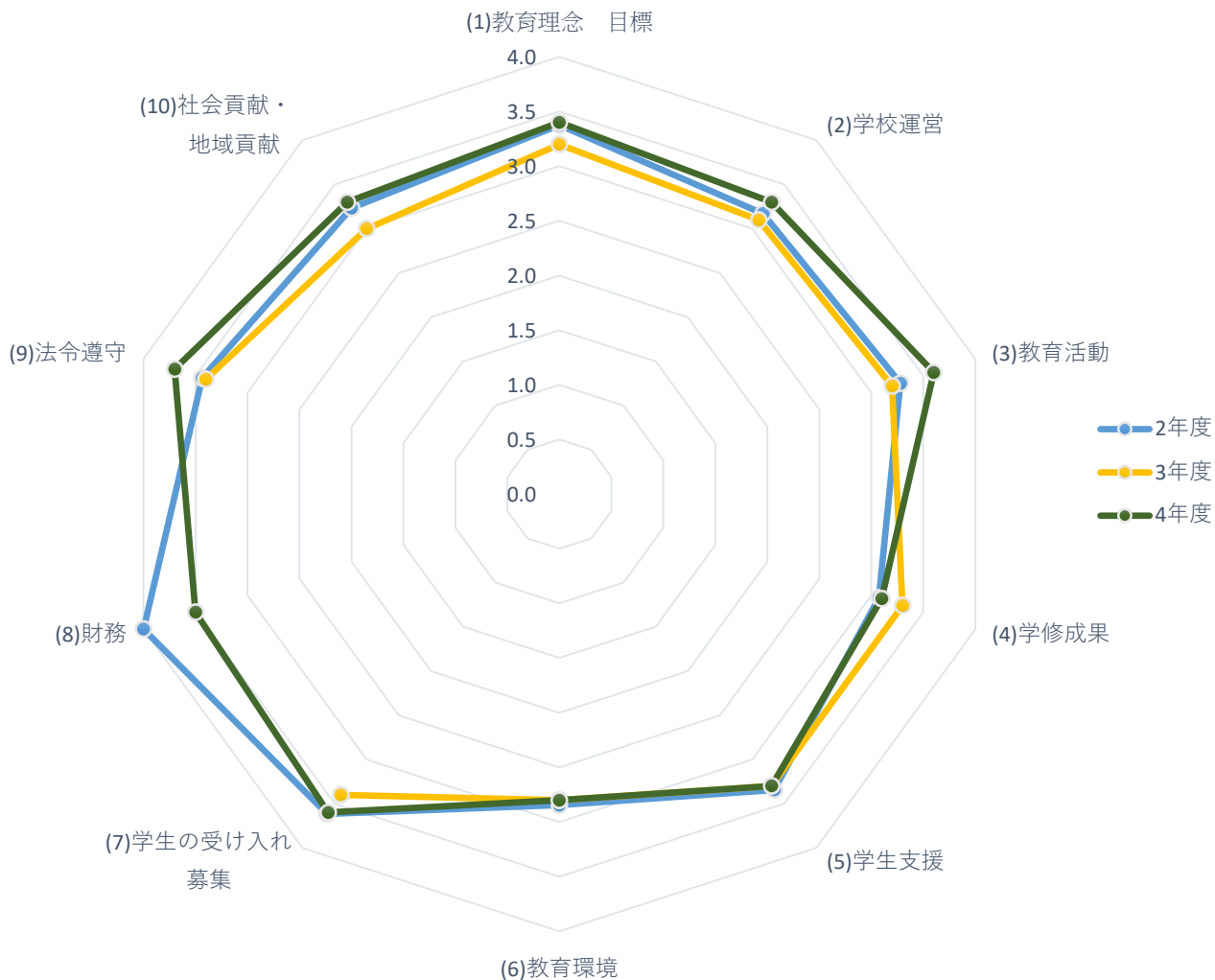
## 大項目のレーダーチャート

職員アンケート



# 2年度・3年度・4年度の比較

## 職員アンケート



### 昨年との比較

昨年よりも全体には高評価であったが、8 財務・4 学修成果が低く、財務は、物価高騰の折、節約に対する意識が少ないことが考えられる。

学修成果は、退学者の増加と卒業生に対する支援体制の不足が影響している。今年度の中退者率は6.4%であり例年に比べ多かったことが影響している。中退者率は全国平均6.01%（R元年からR3年度の平均）を超える状況にあった。原因は進路変更・学生生活不適應・心身耗弱・経済的困窮などであった。年度を超えて対応してきた学生が同年度に退学を決意した状況もある。卒業生に対する支援に関しては、新型コロナの影響もあり学校に来校できない状況もあった。今後は支援体制を強化する必要がある。

6 教育環境は、毎年が評価低い状況にあり、環境に関するアンケート調査をもとに、可能な範囲で調整を行うことが必要である。

# 学生の評価

## アンケート項目

		結果
1	学校は理念・教育目的・教育目標をわかりやすく表現している	3.5
2	教育理念・教育目的・教育目標は学生の学習の指針になっている	3.5
3	理念などの達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいる	3.6
4	授業科目の単位履修の方法は学生便覧にわかりやすく明示されている	3.8
5	実習施設との連携など、医療施設との協力体制が整備されている	3.7
6	単位認定のための評価は学校全体として一貫性がある	3.7
7	学生への指導は学校全体として一貫性がある	3.4
8	学習への指導は学生の学習の動機づけと支援になっている	3.5
9	学生の進路・就職に関する支援体制は整備されている	3.5
10	学生が学校生活を円滑に送れるように、施設設備を整備改善している	3.5
11	教育・学習活動に関する情報提供は適切に行われている	3.6
12	学校のホームページはわかりやすく整備されている	3.5
13	学校は、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	3.7
14	学校は、保護者と適切に連携をとっている	3.5

評価は4段階とした

4：とてもそう思う

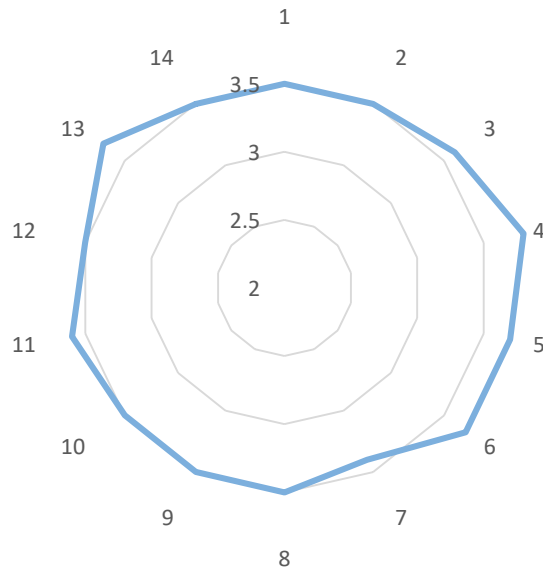
3：そう思う

2：あまり思わない

1：まったく思わない

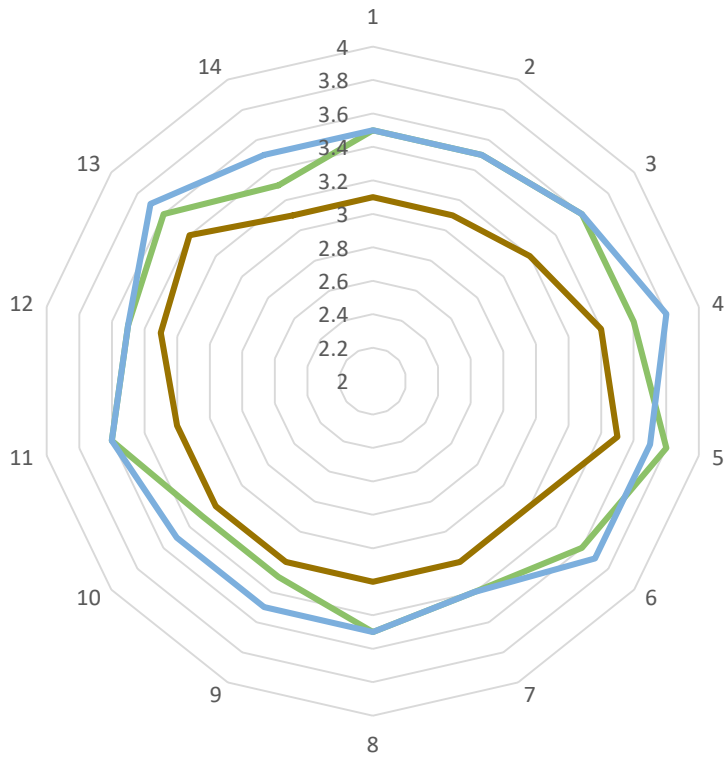
# 学生の評価レーダーチャート

令和4年度



年度比較

令和2年度 令和3年度 令和4年度



## 昨年との比較

昨年に比べ、全体的に評価点が上がっている。新カリキュラムが導入されたことにより見直された部分があったこと。その内容を学生への説明が丁寧に実施できたことが影響したと考える。

実習施設との連携（項目5）は、やや低くなっているがコロナ禍で実習期間が短縮されるなどの影響があり、急な変更に対応が遅れた部分もあったことが影響している。毎年低評価である、学校全体で一貫性のある指導（項目7）は、実習場所も多いことを考慮し教員間の連携を更に密にすることが必要である。

## 2 大項目ごとの評価と課題

### I 教育理念・目標 3.4

令和4年度より新カリキュラムが導入され、新カリキュラムと旧カリキュラムを同時進行で運営した。新カリキュラムで求められている、コミュニケーション力、臨床判断力、社会人基礎力効果のため、教員が意識して学生・新入生保護者への説明機会が増えたことが評価点が上がったと考える。カリキュラム評価で、目的・目標達成のために見直すべきところが明らかになり、5年度の具体策につなぐことができている。また、教育理念・目標を玄関、各教室、アリーナに掲げ、教員・学生が常に目にできるよう継続して表示したことによる効果があり、評価はあがった。

- 課題1 令和4年度の評価をもとに、見直しした具体策を実施する。
- 2 オープンキャンパス・学校説明会・入学説明会等の機会を増やし、本校の理念から新カリキュラムの内容を分かりやすく説明を行う。

### II 学校運営 3.3

学校の理念・目標・育成人物像について、学校パンフレット、学校便覧に明記しカリキュラムまで整合性のある内容となっている。学校運営組織については、図式化され明示されている。カリキュラム、その他事業計画については、2週に一度の教員会議で進捗状況の確認・評価を行い、月1度の教職員連絡会議において職員全体の意思統一を図っている。学校の最高意思決定機関である運営会議は、月に一度開催し適時性のある議決を行っている。業務の効率化、教職員の業務分担の偏在については、会議で調整を図っている。

- 課題1 業務が一部の教員に集中しないようチーム等の応援体制を強化する

### III 教育活動 3.6

1年生の新カリキュラムが開始し新旧同時進行であったが、それぞれの教育理念・目的・目標に沿った科目を計画的に実施している。また計画していた実習、キャリア形成講座、課外活動も該当施設の協力を得ながら実施できている。

年3回のカリキュラム評価会議を実施し、教員間の評価の共有を図っている。それらを踏まえ次年度の授業計画に反映し次年度への課題を提示し改善に取り組んでいる。

令和5年2月実施の国家試験は合格率100%であった。国家試験合格に向け、低学年からの基礎知識の不足を補うことが必要である。

教員の指導力向上のため担当する研修への参加ができた。今後は学会等も参加し、研鑽に向けた機会を得られるようにしていく。

- 課題1 教材の活用、学生との面談により早期の学習支援の開始する。
- 2 学校の国家試験対策に参加できる環境をつくる。
  - 3 教員の自己研鑽の機会を設ける、業務の調整を協力を継続する。

## IV 学修成果 3.1

令和4年度卒業生28名のうち、県内就職23名（23名中：機構8名 34.7%、うち木曾5名 21.7%）県外4名、進学1名であった。令和3年度卒業の進学者も卒業後は木曾1名、中信地区1名の就職した。看護師国家試験は合格率100%であり、県内地域の就業率は確保できた。

令和3年度卒業生に対し、3月にアンケート調査（対象24名）を実施した。回答数4名、回収率16.6%であった。今年度よりGoogleフォームを用いたが、回答が減少している。卒業時や、ホームカミングデーの際に協力を得られるよう呼びかけが必要である。

- 課題1 看護師国家試験合格100%に向け、全教員での支援を行う。低学年からの、学習習慣獲得への関わりをする。
- 2 看護師国家試験不合格者があった場合、学校の国家試験対策への参加の促すと共に定期的な連絡・学習状況の確認する。
  - 3 卒業生の学校の利用についての仕組みづくりをし、卒業時に周知する。ホームカミングデーを開催し、オンラインも取り入れ、参加しやすさを考慮する。

## V 学生支援 3.3

3年生に対し教員による履歴書記入のアドバイスや、学生希望により面接練習を行っている。話すことが苦手な学生が増えてきているため、学生が自信を持って面接に挑めるよう回数を重ねる必要がある。実習時期と重なる場合は、限られた人員での対応となっている。

保護者との連携は、学校ブログ年4回更新し、学生の様子を伝えている。更に、ひまわり通信として各学年の様子を伝える通信を夏休み前保護者に送っている。2022年度から当校のInstagramを始めたため、保護者にも周知させていきたい。

- 課題1 就職活動では、面接練習、履歴書の書き方等の支援が実習時期と重なるため、学生が早期に準備できるよう、引き続き声かけを行っていく。
- 2 保護者との連携では、現在年1回の発行している、ひまわり通信を2回発行していきたい。また、Instagramを周知させていきたい。

## VI 教育環境 2.8

ひまわり棟（研修棟）の活用は、前年度よりコロナによる隔離機会が減少し利用も減った。行事の催事場、試験時の体調不良者控室、遠方からの来校者控え室等で利用すると共に、グループワークや少人数での打ち合わせ等の効果的な活用を考えていく。そのため、wi-fi設備や採光、空調設備などを充実させる必要がある。12月実施した環境に関する教員アンケート結果でもネット環境の不足、寒さ、カビの臭い等が指摘され、対応が必要である。

インターンシップについては、その都度情報提供をしている。

防災体制については、年2回避難訓練や定期的な火災報知器などの点検が行われ、体制が整っている。また、実習施設での避難訓練は、日程等困難で参加できない状況であるが、実習開始時には各々の施設での緊急時対応についての確認を行う。

- 課題1 教育環境はネット環境をはじめ、効果的活用を見据えた環境整備が必要である。
- 2 インターンシップについて1年時から計画的に説明する。
  - 3 年2回の避難訓練、今後も継続し学内の防災設備（避難経路なども含め）も周知する。



## **Ⅶ 学生の受け入れ募集 3.6**

コロナ禍以前のように高校訪問が実施できるようになった。しかし、受験者の減少が続いている。生徒数は年々減り、大学は増加する中で受験生確保に困難を要している。本校の魅力を伝える更なる努力が必要である。

学校案内パンフレットに合格率を載せて伝えてる機会を増やした。しかし、学生が簡単にアクセスできるホームページには就職・進学先については載っていないため情報を伝える場が少ない。

- 課題1 高校訪問を引き続き積極的に実施していくとともに、中学校等の訪問も検討する。学生が簡単にアクセスできるSNSの運用を始めたため、学生募集に活用していく。
- 2 就職・進学先については、ホームページに載せることを検討していく。

## **Ⅷ 財務 3.5**

入学金、授業料収入と長野県立病院機構からの運営費負担金により運営されている。独自収入を増やすことは難しいが、学生の確保に努め、収入の確保を図ることが必要。

開校時に手を入れているものの施設は古く、修繕も課題。また、昨今の原油高で光熱水費の支出も増えている。

照明のLED化についても検討が必要。

- 課題1 学生の確保に努めるとともに、きめ細かい指導で引き続き学生に寄り添い、学生が学習継続できるよう支援する。
- 2 学生に協力をえて使用していない部分を消灯する等さらなる節約に努める。
- 3 令和5年度、全館LED化工事実施予定

## **Ⅸ 法令等の遵守 3.7**

全体では前年度より各項目の評価が改善された。法令や設置基準に沿った運営をしていると評価された。

看護研究において、講義の中で研究倫理について学習している。今年から、県立病院機構合同研究発表会にエントリーする研究を対象に木曽病院の倫理審査会にて審査を受けた。

- 課題1 学生の試験結果や成績管理、出欠席の管理の適時性、正確性を高めるために、教員、学生の協力をさらに要請する必要がある。
- 2 自己評価の結果を受け問題点の改善に向けさらに教職員の相互協力を求めることとする。

## **X 社会貢献・地域貢献 3.3**

新型コロナウイルス感染症対策の緩和により一部の活動制限が解除され、地区の文化祭、雪灯りの散歩道など参加できた行事もあった。そのため昨年度より評価は上がった。

地域の要請を受けて妊婦体験スーツと赤ちゃんモデルの貸し出しを実施した。また、2年ぶりに白凜祭の一般公開が実現した。新型コロナウイルス感染の状況を考慮しながら学校活動を戻していき、教育の一環となる地域貢献ができればと考える。

ボランティア活動を推奨し参加しやすい環境を整えている。新型コロナウイルス感染の状況を考慮して実施していく必要があるが、地元出身の学生が多くはない中でボランティアへの参加が地域とのつながりにもなるため、今後も推奨していきたい。

障がい者支援施設にて職員に対し救急蘇生法を含む救急・救命講座を実施。県民手話講座も今年度は実施できた。

- 課題1 新型コロナウイルス感染症対策を講じて、参加機会の拡大をする。



